

| ○第1回及び第2回行政評価委員会のまとめ（案）について | |
|-----------------------------|--|
| 委員長 | <p>前々回の第1回委員会のまとめについて、第2回委員会で議論をし、修正があった項目について、事務局で修正してもらい資料として配布している。修正のあった施策展開の方針について、特に意見等はないか？</p> <p><危機管理></p> <p>2 危機の発生を防ぎ、発生した場合は被害や影響を最小限に抑えられるよう、危機管理体制を整えます</p> |
| 各委員 | <p>特に意見なく、修正まとめとして承認。</p> <p><防犯・交通安全></p> <p>2 地域の安全を高めるための施設の整備などを図ります</p> |
| 各委員 | <p>特に意見なく、修正まとめとして承認。</p> |
| 委員長 | <p>第1回行政評価委員会評価の修正まとめは、委員会意見として確定とします。</p> <p>次に第2回委員会のまとめ（案）であるが、前回委員会での各委員の意見を事務局が集約したものを配布しているが、前回行った評価について、順番に確認していくので、付け加える点、訂正等あれば、意見をお願いします。</p> <p><土地利用></p> <p>1 今後の市全体や地域ごとのまちづくりの方針を定めます</p> |
| 各委員 | <p>原案のとおり承認。</p> <p>2 南部地域においては、地域の特性を生かし、多様な都市機能を備えたコンパクトな都市の形成をめざします</p> |
| 各委員 | <p>原案のとおり承認</p> <p>3 北部地域においては、現在の自然豊かな農村集落の環境を保全しつつ、地域の活力の維持・増進を図ります</p> |

| | |
|-----|--|
| 各委員 | <p>原案のとおり承認</p> <p><市街地・北部整備></p> <p>1 市街地における都市機能の集約や効率化、中心市街地を核とする地域の活性化を推進します</p> |
| 各委員 | <p>原案のとおり承認</p> <p>2 北部地域の活性化に向けた基盤整備を進めるとともに、地域資源の活用や他の地域との交流・連携により地域全体の魅力を高めます</p> |
| 各委員 | <p>原案のとおり承認</p> <p><住宅・住環境></p> <p>1 安心して快適に住み続けられる住まいづくりを進めます</p> |
| 各委員 | <p>原案のとおり承認</p> <p>2 良質な住宅ストックを活用したまちづくりを推進します</p> |
| 各委員 | <p>原案のとおり承認</p> <p>3 地域特性を生かした個性ある住環境の形成に努めます</p> |
| 各委員 | <p>原案のとおり承認</p> |
| 委員長 | <p>第2回行政評価委員会まとめ（案）については、原案のとおり承認し、委員会意見として確定しました。</p> |

| | |
|---|---|
| 『1 都市計画道路や主要な一般市道などによって構成する道路網の総合的な検証を行います』 | |
| 委員 | 事務事業評価表の中で、「国への要望活動が3回」となっているが、どのような内容か。 |
| 建設室長 | 事業の中身としては、関連市町と共同で国道整備についての要望を国、関係機関に対して行っている。活動内容を数字で表しにくい事業であり、結果的に「要望を3回」といった表記になっている。 |
| 委員 | 都市計画道路証明とは何か。 |
| 建設室長 | 都市計画道路にかかっている区域かどうかの証明書。建物を建てる時に必要となる。 |
| 委員 | 市民との役割分担の妥当性で「現在の取組が妥当」、つまり市民に意見を聞きながら進めたとなっているが、総合評価で「市民の意見を聞きながら進めていく」とある。これは現在の意見の聞き取り方が不十分ということか。 |
| 建設室長 | 市民に意見を聞きながら進めるという方法論について、現在の取組が妥当と考えている。今後、都市計画道路、一般市道等総合的な道路網を検討する上で、これまで同様市民の意見を聞きながら進めていくということ。 |
| 委員 | 事務事業評価表を見ると、この施策の関連事業は全て「市民との協働はなじまない」となっている。市民の意見を聞きながら進めるということは、市民と協働で進めていくということだと思うが。 |
| 建設室長 | その通りだと思う。記入内容について整理する。 |
| 委員 | 「自治会、まちづくり協議会等の地元団体とー」という表記がある。別個の団体であるという認識でないのなら、「地域の事情をよく知る市民団体」という表記に変えてはどうか。 |
| 建設室長 | 様々な種類の道路がある。道路の種類によって協議相手が変わる場合 |

| | |
|-------------|---|
| <p>委員</p> | <p>もあるが、特に自治会、まちづくり協議会が別個の団体であるとか、並列の組織だとかそういう意図ではない。「地域の事情をよく知る市民団体」に表現を改めたいと思う。</p> <p>事務事業の中に交通量調査があるが、総合計画には渋滞解消といった内容は出てこないと思うが。総合的な道路網の検討には渋滞解消、利便性向上も含まれるのか。</p> |
| <p>建設室長</p> | <p>渋滞対策も含まれると考えている。</p> |
| <p>委員</p> | <p>「総合的な道路網の検討」というのが抽象的で分かりづらいのだが、渋滞解消、防災、災害時の連絡道路とか、そういったものも含まれるということか。</p> |
| <p>建設室長</p> | <p>「総合的な道路網の検討」とは、都市計画道路については、本当に必要かどうかを見直そうというもの。一般市道については、車から人へという方向へシフトしていきたい。特に本市においては防災という観点から地域と地域を結ぶ連絡道をどうつないでいくかがポイントになる。</p> |

| 『2 人と環境にやさしい公共交通網の充実を図ります』 | |
|----------------------------|--|
| 委員 | バスの自主運行は地域にとってとても重要な課題。どのような組織、団体と協議を行っているのか。 |
| 建設室長 | 基本的には「地域の方」という言い方になる。交通連携計画を策定するにあたり、地域住民や、バス事業者と協議したわけだが、基本的に2つの考え方がある。1つは市が積極的に運行に関わっていくもの。もう1つは地域が中心になって運行するもの。市が積極的に関わる公共交通の場合は、運行ルートの自治会、コミュニティの方々と協議を行う。地域が中心になって運行するものについては、運行したいと考えている住民と直接協議する。 |
| 委員 | 地域が中心の場合の経費はどうなるのか。 |
| 建設室長 | 基本的には地域が負担する。その支援を市が行っていきこうというもの。乗り合いバスの利用者減少は車社会による影響が大きい、市として一定の生活レベルは維持できるよう何らかの対策は行う必要がある。具体的な支援の方策については、まだ内部の検討段階である。 |
| 委員 | コミュニティバスというのは市が中心となって運行しているのか。 |
| 建設室長 | 仁川、売布の2箇所で開催している。運営経費と運行収入の差額を市が阪急バスに助成する。一定の生活レベルを維持するために必要な路線と考えている。一方で駅近ではあるが高低差等もあり老人にとってはかなりつらいといった地域において、地域主体で対策を考えようという場合は、市としても何らかの支援を検討していくということ。 |
| 委員 | 豊岡市に「地区タク」というのがある。以前にバス会社が運行を止め、その後できた「イナカー」という制度も上手くいかなかった。そこで現在地域の方がこの「地区タク」という制度を作り運営している。市はここに補助を出している。ドア to ドアの便利さ、地域の方がドライバーを務めるという気安さもあり、「イナカー」時代より利用者が増えているとのこと。こういう取組事例も参考にしてはどうか。 |
| 建設室長 | コンパクトシティの実現にとって地域の公共交通は大きな課題。やはり地域の方が自主的に、熱意を持って取り組まれることが重要。特に |

| | |
|-------------|--|
| | <p>宝塚市の市街地では、地元の積極的な関わり抜きには、そういった取り組みは成功しない。公共交通はみんなで助け合って移動するものだという啓発が大切。</p> |
| <p>委員</p> | <p>問題の在り様が地域によって違う。道路部門だけが取り組むのではなく、他の部署と連携して取り組むことが必要ではないか。地域の公共交通の問題は、地域の将来を考える上でとてもよいきっかけになると思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>コミュニティバス、ドア to ドアの移動手段といったものを検討する必要性は地域内からも聞こえてくる。そういう検討をしていかないと地域に住み続けられない人も出てくる。ただ、すでに阪急バスの路線がある中で、そういった検討を行うのが難しいこともある。住民努力だけでは乗り越えられない問題もある。市が支援を行ってくれるのであれば、コミュニティバスを検討したい地域は多いと思う。そういった情報を積極的に地域に周知して欲しい。</p> |
| <p>建設室長</p> | <p>既存の阪急バス路線を利用しながら、コミュニティ交通につなげていく検討もあってよいのではないか。ただ、ドア to ドアの考え方は公共交通とは切り分けておく必要がある。</p> |
| <p>委員</p> | <p>福祉タクシーに取り組むグループもある。市の支援があるなら地域としても今後様々な検討を続けていける。</p> |
| <p>委員</p> | <p>モビリティマネジメントという言葉は分かりづらい。日本語で表現できないのか。</p> |
| <p>建設室長</p> | <p>総合計画策定の際、他の計画との絡みもあり「モビリティマネジメント」という文言を使った。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>確かにカタカナ語が増えすぎるのも問題だが、必要性があって使ったのならよいのではないか。</p> |
| <p>委員</p> | <p>総合計画の中に自主運行を検討する地域の数といった指標設定が無い。宝塚市がどこまで本気かが分からないのだが。</p> |

| | |
|------|---|
| 建設室長 | <p>目標設定が難しいのは事実。月見山・長寿ガ丘については平成16年からその話をしている。地域内に公共交通の自主運行という考えが浸透するのに時間がかかるのと、まだコスト削減の方法論が確立していないことから、一足飛びに進められる話ではない。まずパイロットケースとして実現例を作り、それを市内に広めていきたい。</p> |
| 委員 | <p>事務事業評価中に「沿線自治会と調整を行った」とあるがどのような調整か。</p> |
| 建設室長 | <p>光ガ丘線は最終バス9時を10時にできないかといった内容。中山台線はJR中山寺駅前広場に絡むバス停新設に関するもの。</p> |
| 委員 | <p>阪急バスはラッシュ時間は中山寺駅前広場まで入らない。使い勝手が良くないという声がある。</p> |
| 建設室長 | <p>阪急より、中山寺駅に寄ると阪急中山駅への到着が3、4分遅れる。阪急利用者に影響が大きいと朝のラッシュ時は入らないとの回答を得ている。</p> |

| 『3 道路や駅前などにおける安全で快適な環境づくりに努めます』 | |
|---------------------------------|---|
| 委員 | 「市民との役割分担の妥当性」中、「異なる利害を調整していく場や施策を検討する体制づくり」とあるが、これはどういうことか。 |
| 建設室長 | 今までの道路は車重視。これからは歩行者重視。車重視の人と歩行者重視の人が、互いの意見を交換する場を設けることを考えている。 |
| 委員 | 具体的にどのようなものを作っていくつもりか。 |
| 建設室長 | ケースバイケースであるが、地域の道路に関することなら地域の方が集まって協議する場であるし、駅周辺の話であれば駅周辺の広い範囲の住民、団体が集まる場になる。 |
| 委員 | 事業ごとにバラバラにするよりは、もっと地域づくり全体に資するような場にできないか。道路だけでなく、例えばコミュニティ担当部署と連携するようなことを検討して欲しい。 |
| 建設室長 | 当事者意識を持っていないと議論が噛み合わない。個別にやらざるを得ないかと考えている。 |
| 委員 | 単位自治会が集まって地区自治会連合会、市全体の市自治会連合会という組織になっている。自治会連合会としては、単位自治会のエリアだけでなく、より広い範囲の問題についても協議していく方向で考えているのでその組織を上手く使って欲しい。自治会も経験を積むことで成長できる。 |
| 委員 | いろんな人を巻き込んで、新しいまちづくりを進めることが重要。道路を通じて、市民自治や住民参画を活性化させられるのでは。 |
| 委員 | 事務事業評価の指標が、結果の羅列になっており、市民からするとピンとこないのではないか。何でも数字で表せばよいわけではなく、言葉で説明した方が良い場合もある。 |
| 建設室長 | 確かに数字で表すのが難しい場合もある。逆に数字で示す方がわかりやすい場合もある。 |

| | |
|------|---|
| 委員 | 事務事業評価中に「基金」という文言が出てくるが、何のことか。 |
| 事務局 | 特定の目的のために積み立てられたお金。例えば急に土地の買収が必要となった場合等に基金を使って買収し、後で予算から基金積み戻したりする。 |
| 委員 | 道路に関してもアドプト制度を導入できないか。 |
| 建設室長 | 今後検討していく。 |
| 委員長 | ノンステップバスの購入助成は毎年行っているのか。 |
| 建設室長 | 毎年行っている。 |
| 委員長 | バス会社がやればよいのではないかという気もする。また、人件費が随分かかっているようだが。 |
| 建設室長 | バリアフリー化に関する事業もありその人件費も含まれている。 |

| 『4 道路の着実な整備と、新名神高速道路の整備を見据えた取り組みを進めます』 | |
|--|--|
| 委員 | 各施策展開の方針によって、書きぶりが違うようにも思えるのだが、道路網の検証、検討の現状はどうなっているのか。 |
| 建設室長 | 都市計画決定から30年、40年未着手という都市計画道路もある。やる、やらないの検討・整理が必要。一方で整備プログラムには確実にやると決まったものが2路線あるが、また進んでいないということ。 |
| 委員 | 都市計画道路維持管理事業の「除草・剪定」は委託か。人件費が随分かかっているのか、職員が除草作業等を行っているのか。 |
| 建設室長 | 全て委託。人件費は他の事業分も含まれている。 |
| 委員長 | 除草作業について、ボランティア、地域の方にお問い合わせするとか検討はできないか。 |
| 建設室長 | 今のところは考えていない。 |
| 委員長 | 新名神のサービスエリア、スマートインターチェンジの設置場所はいつ決まったのか。 |
| 建設室長 | サービスエリアについてはH21年8月にネクスコが決定。 |
| 委員長 | 今後2年くらいのスマートインターチェンジの予定について |
| 建設室長 | ネクスコに歩調をあわせながら、スマートインターチェンジの設計に着手。H26年度には工事に入りたい。H28年度に完成予定。 |
| 委員長 | ネクスコには一定市の要望は聞いてもらえるのか。 |
| 建設室長 | ネクスコも聞く姿勢は持っているし、要望はしていくつもりだが、最終的にどうなるかは今のところ未定。 |

| 『5 道路や橋梁の管理を適切に行い長寿命化を図ります』 | |
|-----------------------------|--|
| 委員長 | そもそも道路橋の長寿命化計画とは何か。これまでにない特別な長寿命化策をとるのか。それともこれまで行ってきた維持管理の取り組みを計画的に行うというのか。 |
| 建設室長 | 後者の方。橋梁の寿命は50年が目安と考えているが、すでに40%の橋梁がその時期を迎えており、もう20年もすると、80%の橋梁が対象となってくる。計画的に適切な修繕等を行うことで、橋梁の延命を図っていきたい。市内の橋梁の状況を調査し、優先順位をつけて計画的に修繕を行うことで費用の平準化も図れる。 |
| 委員長 | 今後3年間くらいの予定について教えて欲しい。 |
| 建設室長 | 市内424箇所の橋梁中、15m以上のもの、主要な道路にかかるものについては昨年度状況調査を終えている。今年度残りの橋梁について調査を行い、そのデータを元に来年度長寿命化計画を策定する予定。 |
| 委員 | 例えば事務事業中「環境美化推進事業」について、学校や公民館等で環境美化について学習し、意識、意欲が高まっても、実際に事業を行うのは他部署という状況は、市民の側も消化不良を起こすのではないか。 |
| 建設室長 | 「環境美化推進事業」については環境セクションが中心になって行っている。環境セクションが啓発を行い、道路セクションは市民清掃後に出た側溝のゴミの回収を担当している。 |
| 委員 | 市民清掃も結局は自治会に話が来て自治会員が清掃に出る。自治会の加入率が低いところなど、結局自治会員の負担が増えてしまう。自治会員だけでなく、市民がやる清掃であることをもっとアピールして欲しい。また、市民清掃の案内は環境からくるが、ゴミの処分の問合せ先が、公園のゴミは公園緑地課、道路のゴミは道路管理課と別々だったりする。もう少し市民にとって分かりやすいようにして欲しい。今後道路でもアドプト制度の検討を進めるなら、市民が混乱せずスムーズに取り組める仕組みにして欲しい。 |
| 建設室長 | ご指摘を受け止め、今後の事業に活かしていきたい。 |

| | |
|------|---|
| 委員 | 道路のバリアフリーなど、段差解消の必要な箇所等の特定はどのように行っているのか。 |
| 建設室長 | バリアフリー化計画では、全ての交差点の段差解消を行うとしている。ただ、交差点部分の段差解消だけでなく、更に充実を考えていく必要がある。住民から修繕や改良が必要な箇所について連絡を貰うことも多い。生活道路は特にそういったケースが多い。 |
| 委員 | 道路に関する苦情や連絡は多いのか。 |
| 建設室長 | そういった場合もあるが、自治会を通じて地域の道路の要補修箇所や問題点について情報をいただくことが多い。 |
| 委員長 | 信号の設置などはどうか。 |
| 建設室長 | 信号は警察案件だが、市民からの要望はいただくことがある。道路管理者として必要と思われるものについては警察と協議をしていく。 |
| 委員 | そういった道路の情報提供数は指標として分かりやすいのではないか。 |
| 委員長 | 件数が多ければよいという方向にミスリードされる可能性もある。 |
| 委員 | 自治会内でも道路補修の希望箇所は様々。意見調整の上で自治会要望として市にあげている。何でも要求するのではなく地域内で精査の上要望するので、そのあたりは自治会を上手く使ってもらえればよい。また、階段の手すりなど、女性にも持ちやすいよう細くするなど、住民目線で道路整備を行ってもらえるとありがたい。 |

| | |
|--|--|
| <p>『1 浸水区域の早期解消をめざして、総合治水の観点から、河川の改修や雨水路の整備などを推進します』</p> <p>『2 河川・水辺空間の利活用や美化活動などを推進します』</p> <p>※この2つの施策展開の方針については、関連性が高いことからまとめて審議することになった。</p> | |
| 委員長 | <p>河川・水辺空間の利活用ということであるが、評価の文面から見ると、美化や管理といったところが主であり、あまり利活用という側面が見て取れないが、今後の展開として、例えば、魅力があり、人が集うような取り組みを考えているのかを事業構成の点から伺いたい。</p> |
| 生活安全室長 | <p>利活用という点について、例えば、武庫川では、過去に草が生い茂っていたような時があり、アドプト制度等を利用され、住民の方が草刈りをして、散歩できるようになったというケースはある。また、集客として、朝市やフリーマーケットで活用されている場合もあるが、それ以外の利活用ということでは、なかなか難しい。</p> |
| 委員長 | <p>次に浸水区域の早期解消についてであるが、最近の気候変動によるゲリラ豪雨で時間 100 ミリ、150 ミリといった雨が降っているが、現在の計画では、そのような雨への対応も織り込み済みであるのか、それとも心配があるのかを安全性の面から伺いたい。</p> |
| 生活安全室長 | <p>現在の河川については、10年に1回程度あるような大雨にしか対応していない。武庫川についても、17年に1回程度あるような大雨にしか対応していない。</p> <p>現在、よく発生している時間 100 ミリといったような豪雨には、対応できていないというのが実情である。</p> <p>下水道の雨水管路でいうと、時間 47 ミリの降雨水にしか対応できていない状況である。</p> |
| 委員長 | <p>現実に時間 100 ミリといったような豪雨が発生している中で、そこは対応できないと安心できないと考えるが、何か対策があるのではないか？</p> |
| 生活安全室長 | <p>ハード面での対策は、早期には困難であるが、市としては、現在、ソフト面の対策である「降水量の情報提供」、「ハザードマップ」といった災害防止に向けての市民への情報提供、啓発に取り組んでいる。</p> |

| | |
|--------|--|
| 委員長 | その意味での総合治水ということか |
| 生活安全室長 | その通りである。 |
| 委員長 | 理解したが、100 ミリ単位の雨に対して、総合治水でどこまで対応できるのかということについては、しっかり検証してもらいたい。 |
| 委員 | 各戸雨水貯留施設の設置について、増加してきていることと思うが、何か増やすための工夫や、今後もソフト対策の一環として、取り組みを進めていくのか？ |
| 施設部長 | 各戸雨水貯留施設の設置については、市は平成 16 年度から設置補助を行っているが、平成 19 年度までは年間 40 件程度であった実績が、最近では年間 20 件程度となってきている。今後も設置補助制度を継続し、ホームページ等を通じて、市民啓発に努めたい。 |
| 委員 | 各家庭でも、意識が高まってきており、若干増えているように感じるが、どうか。 |
| 施設部長 | 防災面の啓発により、数値が若干でも伸びているのだと思う。 |
| 委員 | 河川・水辺空間の施策展開の方針の指標の内、河川水質・生物化学酸素要求量（BOD）の 75%値という指標の方向は下向きであるのに、当初値と平成 23 年度値は 1.2 ということで変わっていないということであるが、これはどう考えれば良いか。 |
| 生活安全室長 | BOD が 0 に近いほど、きれいな水であるということができる。 |
| 委員 | BOD の 75%値という数値が挙がっているが、目標値の設定はないのか？ |
| 生活安全室長 | BOD の 75%値というのは、年間の BOD の日平均の値を、数値の良い順に 100 個ならべた時に 75 番目の値が 1.2 という意味であり、逆に言えば、悪い方から 25 番目の値が 1.2 ということである。 武庫川上流の武田尾で測定した値が 0.9、市役所の横である宝塚新大橋 |

| | |
|---------------|---|
| <p>事務局</p> | <p>の横で測定した値が 1.0、西宮市との市境である百間樋の値が 1.2 ということで、下流ほど数値が悪化し、1.2 というのは、この百間樋で測定した数値である。</p> <p>ここでは、目標値は設定しておらず、当初値である 1.2 を出来る限り下げていくという意味で目指すべき方向性を示している。</p> |
| <p>委員</p> | <p>先程、ゲリラ豪雨のような雨量には、ハード面での対応は難しいので、ソフト面の対応に力を入れているとの話があった。ホームページに雨量計の数値が掲載されることは、知っているが、雨量計の数値を見て、市民はどうすれば、災害を回避できるのかというような所に考えが繋がっていないと感じる。</p> <p>市の出前講座で、水防に関する防災面の講義も受けたことがあるが、それはあくまでも、災害対策に係る地域の委員会の中でのこと。掲載された情報（例えば、雨量等の数値）を、住民側がどう対処して活用するのかということについて、一般市民の方にはまだ周知がされていないと思う。現在の取り組みが適正との市の評価であるが、具体的に数値を見てどう動けば良いのか等について、市民への周知を進めなければ、次のステップには繋がっていかないと思う。</p> |
| <p>生活安全室長</p> | <p>市では、避難勧告を出す一定の基準を作っており、公表することになっているが、現状は、未だ市民には、広く周知されていないと思う。例えば、「雨量が何ミリ降れば、避難勧告を出すのか」、「土砂災害警戒情報が出た場合にどの地域に警戒情報を出すのか」、「武田尾の水位計で、どの段階にすれば避難勧告を出すのか」といったことについて、市では一定の基準を持っているが、広く市民に周知されていない。</p> |
| <p>委員</p> | <p>避難勧告だけではなく、先程の話を聞いて、例えば下水道の雨水管路は 47 ミリの雨にしか対応できていないので、それ以上の降雨があった場合には、水路等が溢れる危険が予想されることを私は、理解できた。でも、知らない人の方がはるかに多いと思う。ホームページの降雨量の数値を見て、住民が次にどう動けば良いのかということ浸透させていく必要がある。</p> <p>せつかく情報として提供されているのであるから、次に繋げていくことが大事である。</p> |

| | |
|---------------|--|
| <p>委員長</p> | <p>その意味では、ハザードマップとの整合性をどう考えるのかということが問題になると思う。</p> <p>例えば、現在、作成しているハザードマップでは、想定以上の雨が降った場合に、想定している結果と同じ結果になるのか？それとも違う結果になるのか？</p> |
| <p>生活安全室長</p> | <p>現在、市が作成しているハザードマップでは、1つのモデルにしかならないと考える。</p> <p>現在のハザードマップは、平成16年の台風23号の雨量モデルをシミュレートして作成しており、雨の降り方によっては、まったく様相が変化することも考えられる。あくまで目安でしかないので、実際のところは、なかなかハザードマップ通りにはいかない。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>様々なケースを想定してハザードマップを作成するとすれば、莫大な費用がかかるのか？</p> |
| <p>生活安全室長</p> | <p>現在のハザードマップは、兵庫県からデータ等を提供してもらい作成しているものであり、具体的にいくらかかるのかは、現段階では分からない。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>雨の降り方が変わってきており、ゲリラ豪雨が現実的な脅威となっている中では、現行のハザードマップではミスリーディングになる可能性ある。雨量計の情報をどう読むのかという点も含め、ハザードマップについては、総合的に検討する必要がある。</p> |
| <p>委員</p> | <p>雨量計の情報を読み取ることにより、逆に地域から危険箇所についての情報提供ができることに繋がっていくかもしれないし、ハザードマップについては、地域で自分たちのハザードマップを作っている所も出てきているので、その意味からも情報の見方を周知してもらうことは、地域住民自らが、地域の危険箇所を知り、自分たちでケアできるということに繋がっていくと思う。</p> |
| <p>生活安全室長</p> | <p>地域の危険箇所を一番良く理解しているのは、地域の住民の方だと思う。その意味からも、市として、地域の方々の「手作りハザードマップ」の作成を支援し、市全体にも広げて行きたいと思うが、地域によって温度差があり、なかなか進まないというのも事実である。</p> |

| | |
|-----------|---|
| <p>委員</p> | <p>「手作りハザードマップ」を作りたいかどうかなどのアンケートを全自治会長宛に行っている。総合防災課とも協議して、質問項目を決定し、例えば、「どのような支援があれば、手作りハザードマップ」を作成できるのかという問いも掲載させていただいているので、アンケート結果を参考にして、呼びかけてもらいたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>いくら避難勧告を出しても、当事者に危険という認識がなければ、避難に繋がらないので、総合治水の観点から、災害が発生した場合に取るべき行動等の地域への周知及び啓発について、しっかり取り組んでもらいたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>関西大学の河田先生が、「逃げよう」という本を出版されていて、その本には、何ミリの降雨量があれば、どのように逃げるのか、ゲリラ豪雨の時は、どうすれば良いのか等、具体的に書かれている。そんな本を参考に地域版のハザードマップを危機管理とも連携して作成し、地域で活用すれば、より効果的だと思う。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>『1 おいしい水の安定供給を図るため、良好な水源確保や耐震化などを進めます』 『2 下水道（汚水）施設の機能を高めるとともに、下水道普及率の向上などを推進します』※この2つの施策展開の方針については、関連性が高いことからまとめて審議することになった。</p> | |
| 委員 | <p>1つ目の施策の事務事業構成の適正性の部分で、「阪神水道からの受水と比較するため、県営水道施設の現状を確認し、メリット、デメリットの整理、受水単価・施設整備負担費用などから、経済性比較を行い・・・」とあるが、阪神水道と県営水道では、どちらの方が、どのようなメリットがあるのか見えにくい。</p> |
| 施設部長 | <p>市としては、阪神水道からの受水の方が合理的であると考えている。設備投資、料金の関係や、地形的な要因で阪神水道の方がより高い場所に施設があり、自然流下で受水できるという点でメリットがある。県営水道からでは、ポンプで水を高い所に上げることになり、電気代、設備費用が重むことになるため、阪神水道からの受水をメインで考えていきたい。但し、県営水道についても、水源確保のために、広域的な取り組みとして、周辺市でお願いして、事業実施してもらっているという経緯がある。</p> |
| 委員 | <p>方向性としては、市民にとってよりメリットのある方向での検討をお願いする。 次に同じく、上水道で新エネルギー・省エネルギーの導入の取り組みとして、小水力発電に取り組む等との記載もあるが、研究の動向、今後の方向性としてはどうか？</p> |
| 施設部長 | <p>出来る限りアンテナを広げて、職員による情報収集に努めたいと考えているが、過去にも小水力発電、風力発電について検討しているが、いずれの場合も、設備投資費の割高感から断念した経緯がある。現在は、浄水場の屋根に太陽光発電のパネルを敷いて発電する方向で検討を進めたいと考えている。</p> |
| 委員長 | <p>下水道の水洗化率であるが、下水道の共用がされているのに接続されていないようなケースは、何件程度あるのか？</p> |
| 施設部長 | <p>宅前に下水道本管があるのに接続されていないケースとしては、1,200件程度ある。</p> |

| | |
|------|--|
| 委員長 | それについては、どんな事業をされていて、どのような成果なのか？ |
| 施設部長 | 市としては、年に1回、現地を訪問してビラの配布を行う等の啓発を行っている。 |
| 委員長 | 下水道につなぐことは、義務的なことだと思うが、何か助成制度はあるのか。 |
| 施設部長 | 助成制度としては、2万円の補助金と、標準工事費の内、36万円を上限とする貸付制度がある。 |
| 委員長 | その方法で、残った件数については、減りつつあるのか、それとも数値的には頭打ちか？ |
| 施設部長 | 年間100件程度は減っており、PRの成果であると考えている。 |
| 委員 | 貸付制度について、貸し倒れ等のケースはあるのか？ |
| 施設部長 | 一部回収できないケースはあるが、保証人の担保を取っている。 |

| ○その他 | |
|------|--|
| 委員長 | その他ということで、委員から何か意見等がありましたらお願いします。 |
| 委員 | 道路清掃のアドプト事業に関連して、収集したごみをどう処分すればよいかわからないという住民の意見を聞くことがある。 私の地域では、自分たちで実施する清掃活動の日時を道路管理課に伝えて、回収と処分をお願いしている。市として地域住民の清掃の後の受け皿があることをきっちりとPRしてもらえれば、地域として活動しやすい実態があることを理解してほしい。 |
| 委員 | 県道清掃のアドプト事業の場合、清掃のための資材は県が提供し、取り組む人のモチベーションの向上については、NPOセンターで行っている。県は、集めたごみを収集するという協定書を団体等と締結しており、回収されたごみについては、担当部署に連絡すれば、回収してもらえるという仕組みである。 |
| 委員 | そういったことを知らない住民も多いと思うので、周知をお願いしたい。 話は変わるがバスロータリーは、道路なのか？ |
| 建設室長 | 道路の場合もある。 |
| 委員 | バスロータリーに夜間にたむろする人間が、毎晩、花火を打ち上げるなどして、騒音やごみの問題を引き起こして、近隣の住民が迷惑しているような場合、住民は誰に相談すれば良いのか？ 警察に相談して、毎晩110番の通報をするが、警官が来るとクモの子を散らしたかのように逃げて行き、どうしようもない状況である。 地域で出来ることはしたいが、どうすれば良いか。 |
| 建設室長 | 道路管理者としては、道路にいることだけをもって退去の命令を出すことはできないが、問題になるようなケースについては、警察等と連携をとって取り組むことになる。 学生等が行っている場合には、教育委員会と連携をとって取り組むようなケースもある。 |

| | |
|-----|---|
| 委員長 | <p>行為自体を禁ずる条例を制定するという方法もある。</p> |
| 事務局 | <p>次回の委員会は、来週27日（月）13時から15時30分の予定で、会場は本日と同じく特別会議室で開催する。</p> <p>次回の第4回委員会の施策分野としては、「都市景観」、「緑化・公園」、「循環型社会」の3つであり、施策展開の方針は8つの予定となる。</p> <p>議事録については、なるべく早くお送りしたいと思うが、本日のまとめ（案）については、事前にメールで送信できない可能性がある。</p> <p>その場合は、27日当日にご確認いただくことになるので、予めご了承をお願いします。</p> |
| 委員長 | <p>本日も長時間にわたってありがとうございます。</p> <p>本日はこれにて終了する。</p> |